連　載

―――第10回　キンモクセイとレッドロビン　―――2017.3.13

樹木は年々生長し続け、生い茂ります。花の季台の多くの家庭が生け垣にしているキンモクセイとベニカナメモチ（レッドロビン）の剪定と手入れが今回のテーマです。

「今回の作業は、生け垣が再生できる重要な作業です！」

生け垣の木が抜けているところに新たに植え直したり、裾（すそ）あき状態を解消したりするのにいい季節がやってきました。挑戦してみてはいかがですか。

□ 剪定前のワンポイント

1. 枯れ枝の最先端を剪定バサミで切り取ります。
2. 枝葉の茂りがなく裾あきの状態のものは、この 3～4月に株全体を半分の高さに強く切り詰め、根元から新梢（しんしょう）を出させ、仕立て直します。
3. 木が枯れてなくなったところには新しく植え直します。花の季台は真砂土で雨の日の翌日は土が軟らかくなっているため作業が楽です。新たに植えた木は水やりを忘れることなく、1年間は続けましょう。
4. 茂みの少ない木は、肥料不足かもしれません。腐葉土をまき鶏糞を根元から 20 センチくらいのところに穴を掘り、埋め込みましょう。（第6回で説明済み）
5. 枝葉の茂り具合は、道行く人との目線が合わないぐらいが良いといわれています。茂りすぎると美観を損ない、広い庭が狭く感じられ、風通しが悪くなって、病害虫に侵されやすくなります。

□ 剪定の順序

1. 刈る前に竹ぼうきでよく払い、ハチの巣がないかを確認します。
2. 上面（天端）は刈込バサミで水平に刈りそろえます。
3. 側面は刈込バサミで下から上に刈り上げていきます。
4. 終わりに竹ぼうきで全体を払い、細かい枝を木ばさみで仕上げ刈りします。

□ きれいに見せるポイント

年 2 回の剪定がお勧めです。

1回目は3～4月に強く剪定し、道路やお隣との境界線にそって刈り込む

2回目は 10 月～11 月に飛び出た枝をカットします。

参考資料「緑化管理者養成講座」

（今回で連載を終了します。1年間のご愛読ありがとうございます）